

—総括表—

◆ 事業計画

☐

地域の現状と今後の方向性

コロナ禍に休止となっていた地域イベントの多くが再開され住民の交流の機会が戻りつつあるが、高齢者の通いの場の中には、感染症への不安がぬぐえず活動を縮小したり、参加者が減少傾向にある活動も多い。安心して参加できる場の提供やプログラムの提案、協力をを行い、活動の活性化や継続の支援をしていきたい。

地域活動を担ってきた方々の高齢化や高齢者の就業増加等によって、活動の担い手確保が課題となっており、自治会町内会の在り方や、地区としての連携に大きな転換期を迎えている。次世代が無理なく活動を引き継いでいけるよう、区役所、区社協と共に地域に寄り添いながら伴走支援をしていく必要がある。

開所4年目となる環状3号線沿いのコミュニティカフェは、赤ちゃんから高齢者まで気軽に足を運べる場となっている。初めての地域活動やボランティアのきっかけとなり、活動者同士のつながりも生まれている。

また、民生委員等 地域の見守り支え合いに尽力されている方との情報共有により、支援の届き辛かった方が適切な社会資源やサービスに繋がるケースが増えてきている。コロナ後の訪問再開のタイミングなど、悩みが聞かれることもあるが、活動の困りごとにも対応しながら更なる連携、協力関係を築いていきたい。

日々の相談には、8050問題や障がいのある方、ご家族が抱える将来的な権利擁護の問題、ヤングケアラーなど、表面化しづらい課題も見られている。より良い支援に繋ぐためにも早い段階でケアプラザに相談いただけるよう、身近な相談場所として幅広い世代にアプローチをしていくことが不可欠である。そのために区役所や区社協、関係機関はもちろん、近隣のケアプラザとの連携も図っていく。

☐

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
☐	☒	・支援記録、アセスメントシートから読み取れた情報や各職種が把握する情報をアセスメント会議で共有し、計画的に課題の整理、分析を行う。
☒	☐	・幅広い世代に認知症の理解を広げ、認知症の有無に関わらず誰もが自分らしく参加でき、活躍できる交流の場をつくる。
☒	☐	・地域住民が主体的に取り組む活動に寄り添い、課題を共有しながら地域づくりの推進を支援する。
☐	☒	・地域ケア会議では、個別ケースの会議を積み重ねることにより地域課題を抽出し、包括レベルの会議開催をめざしていく。
☒	☐	・学校との連携や若い世代とのつながりを通して、地域活動への働きかけを進める。また、ヤングケアラーなど若者が抱える課題解決に取り組む。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐

振り返り

地域では様々な活動が再開され始めたが、活動の縮小や再開されない活動もあるため、五職種で様々な地域活動に参加し、活性化を図った。地域活動を担ってきた方たちも高齢化が進み、後継者に繋がっていないのが現状ではあるが、意見交換会等に意欲的に参加された方もいるため繋がっていくようアプローチをしていく。地域に出向いての出張講座や小学校、中学校、南陵高校での認知症サポーター養成講座をはじめ、自主事業、相談会を開催することができた。今年度のケア会議では、ご家族が参加されたことでより現状を知っていただき、地域で見守りの声も挙がり有意義な会議になった。「地区社協と福祉事業所連絡会」や「介護事業所連絡会」を開催することで福祉事業所の方が地域の集まりに参加されるようになり、関係性を築くことができていく。

五職種会議、事業連絡会議、アセスメント会議を開催、情報を共有し、現状把握・地域ニーズや課題等について検討を行った。まだまだケアプラザをご存じない方もいるため、広く周知をしていく。

地域福祉保健計画では、第4期の再確認、振り返りを行いつつ、第5期地域福祉保健計画策定に向け支援を行った。

☐

区からのコメント

職員同士で連携しながら積極的に地域へ出向き、サロンや活動などに参加して地域住民と顔の見える関係性の構築に努めていただき、感謝いたします。事業の自主化や若い世代との繋がりがつくりなど、今年度の目標に掲げた活動の活性化や伴奏支援ができており、状況に応じて迅速に対応しながら事業を推進していただき、ありがとうございます。

個別支援についても、迅速かつ丁寧に対応いただき、正確なアセスメント情報を共有していただいており、普段からの地域との関係構築があつてのことだと思います。引き続き、良好な関係を築き、地域でのさらなる対応力の底上げにつながるようお願いいたします。

また、認知症の普及啓発については、学校関係者との関係が構築され、計画的に準備したこともあり、ケアプラザ圏域にある学校すべてで認知症サポーター養成講座を実施することができました。学校との連携が難しい地区もある中で、素晴らしい関係性と取組です。ぜひ、継続していただければと思います。区としても、子どもへの認知症普及啓発を進めているため、学校への働きかけや調整方法等、連携させてください。